

教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組み

1. 組織体制・運営機構の整備

本学では、全学的な組織として教職課程委員会を設置している。教職員間で情報を共有し、下記に示すような養成しようとする教員像を明確化し、学科横断的かつ体系的に教職課程の教育の質向上に向けての取り組みを展開できるようにしている。

本学は時代のニーズにマッチした確かな技術力と人間力を身に付け、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としている。そのため、実践的な実学の技能として、【手】と【頭】と【心】に次の 3 つの能力を修得していることを全学共通の要件としている。教職課程においても、この 3 つの能力が三位一体となった教員の養成を目指している。

◎大学において修得する3つの能力

【手】手が動かせること：学修した知識やツールを組み合わせ活用し、与えられた課題に着手できる力

【頭】絵が描けること：考えていることやイメージしていることを図解などによってビジュアルに表現できる力

【心】コミュニケーションができること：人の考えを聞いて理解し、自分の考えも適切に人に伝えられる力

◎養成しようとする教員像

・つねに学び、実験し、たしかな専門性を身につけようとする科学者としての姿勢を身につけた教員

・子どもの内面をとらえ、深い信頼と愛情をもって向き合うことのできる人間性豊かな教員

・子どもや親の願い、社会の要請に耳を傾け、つねに自分を高め、発達させていこうとする自己教育力をもった教員

2. 自己点検評価

自己点検評価報告書の整備を通じて、教職課程の実施状況を客観的に評価し、質の維持・向上を図っている。

3. ガイダンス・履修カルテ管理

本学における教職課程は 2 年次から開始される。1 年次から教職課程に関する説明会やガイダンスを実施し、意欲や関心を高める工夫を行っている。一方で、教職課程は登録制としており、さらに希望する免許教科によっては選考試験や適性審査を課している。

履修開始後に再度全体的なガイダンスを実施、さらに「履修カルテ」を利用し、教職課程科目担当教員による面談を実施、個人の修学状況や課題を把握し、継続的な指導を行っている。

4. カリキュラム工夫

各学科の専門性を活かした教科に関する科目群と、教職課程共通科目をバランスよく配置している。例えば、「理科」においては物理・化学・生物・地学の全分野を網羅する科目編成を行い、現場で求められる「理科」の専門性を全般的に高めるための工夫をしている。

教育実習参加要件単位を設定し、一定の水準を満たした学生のみが教育実習に臨める体制を整えている。教育実習前には事前指導を実施、内容の一つに現職教員による講話を取り入れている。教育実習後には当該年度教育実習参加者だけでなく、次年度教育実習参加予定者も出席した教育実習に係る成果発表会を開催している。教育実習期間中には、各学生を担当する教員を決め、担当教員が教育実習校を訪問し、教育実習校の教諭との情報交換を通じて学生へのフィードバックを行うなど、質を高める工夫を行っている。

4 年次後期開講科目「教職実践演習」では、それまで作成してきた「履修カルテ」をもとに自己の課題を明確化し、教員として必要な知識・技能の補完と定着を図る機会を設けている。

5. 教員採用試験・学生支援の強化

地域との連携や実践的指導力の育成にも力を入れており、また、模擬授業やボランティア活動を通じて、現場での対応力や指導力の向上を図っている。

以上の取り組みにより、教職課程の目的達成に向けた自律的・協働的な教育体制の構築を支えており、本学の教職課程における教育の質の向上に寄与している。